

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500549		
法人名	社会福祉法人青森民友厚生振興団		
事業所名	青山荘グループホーム		
所在地	〒037-0011 青森県五所川原市大字金山字盛山42-8		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな場所でゆったりと四季の移り変わりを感じながら散歩したり、併設の特別養護老人ホームや敷地内を自由に行き来している。解放感があり本人のペースで過ごせる為、精神的にも落ち着き認知症の進行が軽減できている。地域行事や催し物などへ積極的に参加し、地域との交流を図っている。採れたての山菜や畑で収穫した野菜は年中豊富なおえ、旬のものを食べ季節感が味わえるよう食事に工夫をしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>所在地は郊外に位置し、近隣はりんご畑や溜め池などがあり、利用者は職員と一緒に散歩を楽しんでいる。事業所の野菜畑があり、野菜の成長を眺め、収穫後は利用者から教えてもらいながら、一緒に漬物を作るなど楽しい作業もできる。野菜が豊富にあるので、旬の野菜を多く取り入れた手造りメニューとなっている。利用者も満足し「此処のご飯は美味しいよ。また食べに来れば良いよ」と笑う。町内会に加入し、定期に行われる避難訓練や法人の祭りを通じて地域との交流を継続している。地域の保育園・小学校の訪問や高校生ボランティアと交流会など、行事が多く利用者は楽しみにしている。職員は利用者のペースを大事にしながら、事業所理念に掲げている「笑顔」が多くみられるケアを実践していた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングの見やすい位置に掲示し、毎月の会議で確認し合い、日々のケアに繋げている。	理念は年に1度、事業所に合っているかどうかの見直しを行っている。刺繍で手作りした理念をリビングの見やすい位置に貼り、職員はその内容をよく理解してケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で町内会の清掃活動に参加している。また、住民協議会に加入し、作品を出品したり、放課後児童クラブと流しそうめんを行い交流を図っている。	町内会に加入し、町会の作品展に出品し景品をもらうこともある。事業所の秋祭りには町会内に回覧板などで周知し、地域の住民や子供たちが参加し盛り上がっている。近隣の保育園・小学校・児童館との交流も継続中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で認知症関連を議題とした内容を取り入れたり、年1回キャラバンメイトを招いて認知症についての理解や支援を、地域住民の参加の下行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、行事、防災訓練、満足度調査、自己評価、外部評価の結果の報告や意見交換を行い、改善や実践に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に実施している。家族は毎回参加し、民生委員、市役所担当職員、地区社協、地域の老人クラブの方も参加し情報交換している。会議内容は記録され、職員と共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が出席しており、サービスの取り組みを伝え、情報提供を頂いている。急ぎの際などは、電話で助言や指導を頂いている。	運営推進会議にて、市役所担当職員からは市の介護保険情報提供をいただき、事業所側からも空き状況その他を報告している。分からないことは市に電話して聞くこともあり、随時連携し情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として毎月開催している身体拘束防止研究会に参加し、情報を共有している。玄関の施錠はせず、併設の特養やデイとの協力体制を強化している。	法人内で毎月、拘束に関する勉強会が開かれ職員が参加している。マニュアルや記録を回覧して周知し、ベッド柵はもちろん、言葉の拘束にも注意している。施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルのほか、研究会や研修で学び実践している。職員同士確認し合い、虐待防止の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は勉強会や資料等で学ぶ機会を設けている。活用まで至ったケースはないが、相談があればいつでも活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書と重要事項説明書を基に不安や疑問点を伺いながら説明をし、納得頂いてから締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には年2回の満足度調査を行っている。意見箱、苦情相談窓口を玄関に掲示している他、面会時やケアプラン作成時に直接要望等がないか聞いている。	食事やケアの対応に関する満足度調査を年に2回実施し、意見のとりまとめをして、職員に周知し事業所運営に活かしている。家族の訪問時に意向や希望を聞き、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートに目を通し、職員と話す機会を設けている。ミーティングや会議、個別面談で、職員の気づきや意見を取り入れ、反映させている。	管理者はミーティングや会議以外でも職員の意見をよく聞き、仕事がしやすい環境作りをしている。事業所の敷地に外灯を設置したりするなど、職員の意見を大事にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の研修や資格取得の際は、有給休暇や勤務の調整を図り、スキルアップできるように取り組んでいる。また、希望休が取りやすい職場環境や整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や力量に合わせ、法人内外の研修や勉強会に積極的に参加できる機会を確保している。研修資料の回覧を活用し知識や情報を得られるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や地域ケア会議の研修や懇親会等に参加している。同業者との交流により情報交換や相談等をしサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より、居宅ケアマネや短期入所担当者からも情報を共有し、安心してサービスが開始できるように、本人と面談し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望等がないか、その都度伺っている。利用後も面会や電話等で状況を説明し、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネからの情報提供を参考に、本人家族に話を伺いながら、必要とする支援を見極めている。変化時はその都度ケアの見直しを行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴や残存能力に合わせ、手伝いや役割を持ってお互いが支え合えるような関係作りに努めている。野菜の育て方は、その都度聞きながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話にて状況を報告する他、こまめな面会や行事等の参加を促し、関係が途切れないように協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養やデイサービスと行き来し、知人と会う事が出来ている。家族の協力を得ながら、盆・正月帰省の他、外出や買い物に行っている。	併設のデイサービス利用者との交流を楽しんだり、家族の協力のもと馴染みの理美容院に通ったりするなど、入居前からの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩やお手伝いを通じて、お互いが思いやり支え合う場面がみられる。リビング内で孤立しないように利用者同士声を掛け合ったり、座る位置にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先に行き、困っている事や不安な事がないか伺い、職員にその旨伝え、安心して暮らせるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訪室時や入浴時などの時間を利用し、話しやすい環境で伺うようにしている。また、困難な場合は、家族の意向を伺い本人本位に添えるように検討している。	入浴や訪室時の1対1になる際に、一人ひとりの希望・意向を伺っている。話しやすい雰囲気なので、利用者からは自発的な意見も聞かれている。意向の確認が困難な方は家族に相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やサービス利用までの経過等の他、本人家族、ケアマネからの情報を得ながら、サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況、心理状況を申し送りノートやミーティングで報告し、職員全員が情報交換、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議には、本人家族に参加して頂き作成している。遠方のご家族には、電話や面会時に意見を頂いている。状況に変化が見られた際は、見直しをしている。	サービス担当者会議を定期開催し、本人・家族の意向を確認し、随時見直しして現状に合った本人本位のプランを作成している。会議に参加できない家族には事前に電話で意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の様子を申し送りノートとケースへ記録し毎日のミーティングや会議等で情報を共有しながらケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のボランティアや実習生を積極的に受け入れ、その時々外出や通院、買い物など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や催し物に積極的に参加している。地域の方より、公園の草取り時も声を掛けて頂き参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、本人家族の希望を伺いかかりつけ医を決めている。利用後、新たに受診が必要な時も希望の病院を受診する。	本人・家族の意向を確認し、入居前からのかかりつけ医の受診継続を支援している。専門医の受診が必要になった場合も事前に家族に相談してから受診対応行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師へ相談し助言を頂いている。状態変化時は、家族へ報告し受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、情報交換、相談を行い、早期に元の生活が出来るように病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所利用時に終末期をどのようにしたいのか確認し、重度化、終末期に向けた指針を基に説明している。本人家族の希望を伺いながら、医療機関と連携を図っている。	入居時に家族に説明し方向性を確認している。家族の希望で、「看取りケア」を実践した経緯があるが、今後の対応も含めて、併設の特別養護老人ホームの支援を受けながら、細部の検討を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の特養にAEDが設置されており、使用方法や事故発生時や急変時の対応の仕方を学んでいる。定期的に緊急時のマニュアルの確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練と年1回の地震訓練を実施。うち1回は緊急連絡網訓練を行っている。地域の消防団と連携を図りながら協力体制が出来ている。	地域の消防団や民生委員の協力を得て、計画的な避難訓練を実施している。訓練時は利用者に「防災頭巾」を被ってもらい、職員が効率的に避難誘導している。緊急連絡網も整備され、職員も安心している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を行いプライバシーの侵害がないように会話に中でも自尊心を傷つけないように配慮している。利用者のケース記録は鍵付きのキャビネットに入れ管理している。	法人の研修に参加し、「尊厳」「プライバシー」に配慮したケアを実践している。排泄誘導は「お部屋に行きましょう」と小さな声で話し掛けて、本人が恥ずかしくないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝えやすいような雰囲気作りと、自己決定しやすい質問をするなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、併設特養への散歩やリハビリは自由に行っている。本人の意思を尊重しながら、出来るだけ希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めや化粧品は継続できるよう支援している。出来ない方は、一緒に衣類を選んだり、ショッピングで選んで頂き、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味見や盛り付け、配膳、下膳、茶碗拭きを一緒に行っている。畑で収穫した野菜の漬物や山菜の皮むきを行い、四季を感じられるようなメニューになっている。	事業所の野菜畑があり、一緒に収穫し下処理を行い、一緒に食事を作っている。全て手造りで利用者・職員と一緒に食事を作ったり片付けすることで、会話も弾みより一層美味しく食べられると好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設の栄養士が立てており、本人の嗜好や量に合わせて完食出来るように支援している。水分量の足りない方にはゼリーなどで補い確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の状況に合わせて声掛けや付き添い見守りをして清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁のある方は排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。排泄用品も個別に合わせたものを自分で交換できるように支援している。	排泄パターンを把握し、その人に合った時刻に、声掛け・トイレ誘導することで、自力で排泄行為ができるようになった方もいる。利用者9名のうち、8名が布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として毎朝牛乳を提供している。また水分量強化、野菜や食物繊維の多い食事作りや歩行運動への働きかけをし便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日や時間を設定せず、本人の生活習慣や希望に合わせている。マンツーマン対応でゆっくりと本人のペースに合わせて行っている。	浴室は壁も浴槽もヒノキでゆったりとした造りとなっている。週に2～3回、希望の時間に過剰な介助は控え、できることはやっていただきながら、利用者のペースに合わせた入浴対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は入所前の生活習慣に合わせて支援している。使い慣れた枕や毛布を使用し、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容をミーティングで確認している。内容の変更がある時は、状況を観察し医師へ報告している。また悩んだ時いつでも薬剤師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や野菜作り、草取り等は個々に合わせた役割がある。地域行事やイベントへの参加、外出し気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出支援など高校生のボランティアに協力して頂いている。お祭りには家族や商工会議所の協力を得て観覧できている。行事以外にも出掛ける機会を作ったり、個別の買い物等もできるように支援している。	好天気や買い物など利用者の希望があれば、可能な限り個別の外出支援をしている。事業所近隣を散歩したり、ボランティアの協力を得て、外出行事が企画され一緒に食事を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望により所持出来る方は、販売機からジュースを購入したり、外出時には買い物し支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話があり、いつでもかけたい時に支援している。毎年年賀状を出しており、書けない方には代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から見える庭園を見ながら、季節の移り変わりを感じる事が出来ている。リビング内の壁掛けを季節ごとに変えたり、夏場はゴーヤのカーテンで涼しく過ごせる工夫をしている。	建物は天井が高く、全体的にゆったりとした造りになっている。天井近くまで窓があるので採光も多い。リビングの広い窓からは季節色の鮮やかな木や花を眺めることができ、事業所内も絵や写真が多く飾られ、楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にテーブルとベンチを設置し、散歩後はコーヒーを飲みながら談笑できるようにしている。また縁側や廊下にも長椅子を設置し、気兼ねなく過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族の希望に応じてテレビや冷蔵庫、ソファなど居室内に設置されている。面会時、ゆっくりと会話を楽しまれている。	自宅から持ち込んだ家具・カーペット・冷蔵庫などを配置して、利用者が快適に過ごせるように配慮している。居室内は家族写真や好きな小物が飾られて、その人らしい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がりが困難な方にはベッドに手すりを設置したり、個別で床に滑り止めマットを敷いている。キッチンで家事作業がしやすいように高さが二段階に工夫されている。		